



[花き部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

2. 電照を用いた夏秋需要期連続出荷可能な新たな小ギク品種の選定

[要約]

電照を用いた 7～9 月の夏秋需要期連続出荷に、新たに「ちづる」など 5 品種が利用可能と考えられる。これにより白色と桃色の品種が加わり、花色のバリエーションが拡大される。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話 086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

これまでに岡山農研では、コスト削減、軽労働化を目的に、同一品種による小ギクの夏秋需要期連続出荷を目指して、電照による開花抑制効果が高い品種として「はるか」、「ほたる」、「精こまき」、「精ちぐさ」及び「すばる」を選定している。しかし、花色が赤と黄のみであることから、新たに花色の異なる品種などを選定する。

[成果の内容・特徴]

1. 新たに電照による開花抑制効果が高いと判定された 9 品種を用いて、新盆出荷作型で電照栽培（5 月 16 日消灯）を行うと、6 品種が高需要期に開花する（表 1）。
2. 旧盆出荷作型で電照栽培（6 月 15 日消灯）を行うと、6 品種が高需要期に開花する（表 1）。
3. 秋彼岸出荷作型で電照栽培（8 月 1 日消灯）を行うと、7 品種が高需要期に開花する（表 1）。
4. これら 3 作型で、「さぬき」（白）、「ちづる」（桃）、「こがね」（黄）、「精はぎの」（黄）及び「精しずえ」（白）は、高需要期に開花し、切り花長が 80cm 以上で、頂花ブラインドが認められない。これらの品種は、電照を用いた 7～9 月の夏秋需要期連続出荷に利用可能と考えられる。

[成果の活用面・留意点]

1. 白熱灯を用いた、深夜 6 時間（22～4 時）の暗期中断で電照を行った結果である。
2. 「精はぎの」は、新盆出荷作型における自然日長下での開花日が 7 月中旬になる場合があるため、トンネル保温などの開花促進対策が必要となる場合がある。
3. 「精かのか」及び「精しらいと」は、新盆出荷作型における自然日長下での開花日が 7 月上旬であるため、消灯日を 5 月 16 日より前進させることで新盆出荷が可能で、7～9 月の高需要期連続出荷へ利用可能と考えられる。
4. 岡山県赤磐市における結果であり、各産地での適応性の検討が必要である。



[具体的データ]

表 1 夏秋小ギクの電照・新盆、旧盆及び秋彼岸出荷作型における開花日及び切り花品質

品種	電照・新盆出荷作型 5/16消灯				電照・旧盆出荷作型 6/15消灯				電照・秋彼岸出荷作型 8/1消灯				総合 判定
	平均 開花日 (月/日)	切り 花長 (cm)	頂花 フライント [*] 茎率 (%)	判定	平均 開花日 (月/日)	切り 花長 (cm)	頂花 フライント [*] 茎率 (%)	判定	平均 開花日 (月/日)	切り 花長 (cm)	頂花 フライント [*] 茎率 (%)	判定	
	精雲(対照)	7/6	96	-	-	8/1	107	-	-	9/12	106	-	
はるか(参考)	7/4	91	0	-	8/9	102	0	-	9/18	101	0	-	-
ほたる(参考)	7/4	101	0	-	8/8	109	0	-	9/15	118	0	-	-
精こまき(参考)	7/6	93	0	-	8/10	97	0	-	9/16	97	0	-	-
精ちぐさ(参考)	7/7	91	0	-	8/4	94	0	-	9/17	91	0	-	-
すばる(参考)	7/9	101	0	-	8/8	104	0	-	9/14	102	0	-	-
ちづる	7/6	98	0	○	8/7	115	0	○	9/16	121	0	○	◎
さぬき	7/6	84	0	○	8/2	90	0	○	9/11	85	0	○	◎
こがね	7/8	98	0	○	8/5	104	0	○	9/16	106	0	○	◎
ひばり	7/9	103	0	○	8/19	110	0		9/21	115	0		
精しずえ	7/10	86	0	○	8/7	97	0	○	9/14	108	0	○	◎
精はぎの	7/10	96	0	○	8/9	97	0	○	9/16	106	0	○	◎
精かのか	7/11	100	0		8/8	102	0	○	9/15	113	0	○	
黄玉	7/11	84	0		8/8	79	0		9/15	76	11		
精しらいと	7/12	92	0		8/13	97	0		9/19	95	0	○	

注) 対照品種は輪ギク、参考品種はこれまでに選定されていた品種

[その他]

研究課題名：周年安定生産を可能とする花き栽培技術の実証研究

予算区分：受託

研究期間：2013～2017年度

研究担当者：森義雄

関連情報等：1) [平成24年度試験研究主要成果、59-60](#)2) [平成28年試験研究主要成果、63-64](#)